

15. 5世紀の技術革新

仁徳天皇陵（にんとくてんのうりょう）古墳が造られた時代は、新しい文化や技術がどんどん入ってきたの。そのひとつに須恵器（すえき）という焼き物があります。灰色をしたとても堅い焼き物で、丘の斜面に窯をつくって焼いていたの。1000度以上の高温で焼くから、水が漏れる心配がありません。それまでの土器と大きく違う点ね。

もうひとつの新しい技術は、鉄の加工技術なの。ヨロイ・カブトをがんじょうにつくることができるだけでなく、田んぼや畑を耕す道具がたくさん作れるようになり、みんなに広くいきわたるようになりました。おかげで、田んぼや畑での農作業が楽になったわ。新たに田畑を切り開くことにもつながったの。新しい技術・文化によって、庶民（しょみん）の暮らしも大きく変わっていったのね。